

## 「コミュニケーション」グループ

本校舎幼稚部／熊谷美智子、小田島史世、千田南  
竹野郁子  
本校舎小学部／柏葉真紀、高橋奈輔子、菅原久恵  
千葉友夏、内記裕美、千葉秀明  
三浦由紀子、及川恵貴、戸賀澤千衣  
本校舎中学部／高橋珠、高井翼、田巻みさ  
小野寺晶子  
本校舎高等部／岩谷あゆみ、奥友藍、舘澤英理  
小原絹代、大和田由佳、千葉廣見  
遠藤綾子、小須田朋子、熊谷恵美  
多田雅彦、宮本富男、佐々木裕大

### 1 研究テーマ

「個に応じた伝え合う力を伸ばす取り組み」

### 2 研究内容

本グループは、幼児児童生徒の課題、教師のニーズから5つの小グループに分かれて、それぞれの研究テーマに沿って研究実践を行っていくこととした。各小グループの研究内容を以下に示す。

グループ①…幼稚部

- ・学部行事の検討
- ・絵日記発表の研修

グループ②…本校舎小学部

- ・授業研究

グループ③…本校舎小学部

- ・事例研究
- ・授業研究

グループ④…中学部及び高等部

- ・事例研究

グループ⑤…高等部

- ・文献研究
- ・授業研究

### 3 研究計画

月日	内容
5/18	小グループ、グループリーダーの決定 推進計画の確認
6/30	テーマ、研究方法、推進計画、役割分担等の決定
7/20	各グループごとの研究（進捗状況確認、意見交換等）
8/8	各グループごとの研究（進捗状況確認、意見交換等）
9/20	中間報告会

10/31	各グループごとの研究（成果と課題）
12/20	各グループごとの研究（研究のまとめ）
1/18	報告会 コミュニケーショングループのまとめ

## 4 成果と課題

### (1) 成果

本グループは幼小中高の4つの学部にも所属する職員で構成されている。グループ全体でのテーマを深めるように昨年度からの成果と課題を踏まえつつ継続して同じテーマで研究を進めた。また、今年度は東北特研での発表もあったため、併せて研究を進めることができるようそれに沿ったグループで研究を進めた。その結果、計画的に研究を進めることができた。

9月には他の小グループがどのような研究を進めているか情報を交換し合った。他学部や他の幼児、児童、生徒の様子を知る機会となった。言葉を獲得する段階から、教師を介したコミュニケーション、子ども同士のコミュニケーション、場に応じたコミュニケーションスキル、相手のことを考えたり協力したりするといったことを発達段階を踏まえて確認できた。

小グループ内では、どのグループも幼児、児童、生徒の実態を共通理解し、支援を共有することで変容が見られた。具体的には、「聞く力」やルールなど相手を意識したコミュニケーションができるようになった、子ども自身が「わかった」という実感や「安心する」という実感をもつことができたことなどである。さらに改めて個々の幼児、児童、生徒の課題が明らかになったり、教師自身の振り返りができたことも挙げられる。さらに、各グループの取り組みから共通してコミュニケーションの仕方を教師が教える、伝えることから始まり子ども自身が考えたり、活用するという流れが有効と考えられる。

### (2) 課題

研究内容の課題については以下のことが明らかになった。

- ・教師のかかわり方や個に応じた支援、活動の見直しなどコミュニケーションを広げるための手立てをさらに工夫する必要がある。
- ・特定の場面での成果は見られたがそれを他の場面へ広げていくように研究を進める。
- ・教師間の連携がさらに必要である。

2年間にわたり同じテーマで研究を進めた。小グループ内では研究が深まったが小グループ同士では情報を共有するにとどまり、グループ同士で研究を深めるには至らなかった。また、小グループの編成は同じ学部で編成するグループが殆どであったため研究を進めやすかった反面、他の視点を取り入れることが難しかったと考えられる。日程調整など物理的な制約もあり、研究の進め方に工夫が必要である。

## 5 参考文献

- ※ コミュニケーション能力を高める指導の工夫  
～アサーションスキルを取り入れたディベート的学習を通して～ 沖縄市立比屋根小学校の実践より
- ※ よりよい人間関係をはぐくむ「アサーション・トレーニング」  
指導プログラムの開発に関する調査研究〈最終報告〉 埼玉県立総合教育センター
- ※ 自己理解・他者理解のためのグループワーク 東北大学教育学部教育学研究科